

a. 海外との組織的教育研究交流支援プログラム

海外の高等教育研究機関との組織的な連携により実施する教育研究上の取り組み(国際集会開催・研究者招へいを含む)に対し、経費の全部または一部を助成する。

b. 若手教職員・研究者の海外渡航支援プログラム

今後の国際共同研究の中心となる若手研究者の養成を図るため、本学の若手教職員・研究者が計画する海外での研究活動のための海外渡航に対し、渡航に要する経費の全部または一部を助成する。

c. 大学院学生等の海外渡航支援プログラム

グローバルに活躍する人材輩出の促進を目的として、海外で学習・研究活動を行う大学院学生等に対し、当該活動に必要な経費の全部または一部を支援する。

第5節 生涯学習事業

第1項 生涯学習をめぐる状況

2006(平成18)年施行の改正「教育基本法」第3条に「生涯学習の理念」が新たに盛り込まれた。「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。」とあり、生涯学習の機会拡充と社会的活用が求められることとなった。

また、翌2007(平成19)年の「学校教育法」一部改正に伴い「履修証明制度」が創設された。以降も諸省令の改正等は継続し、正規学生以外の社会人等に学習機会を拡大する制度が整備され、本学においても生涯学習機会の拡充に向けて取り組んでいるところである。

第2項 科目等履修生・履修証明プログラム

(1) 科目等履修生

本学における科目等履修生は、1993（平成5）年に定められた「科目等履修生規程」（以前は聴講生規程）に始まり、1996（平成8）年の改正により入学資格が緩和された。以降、社会人に対する生涯学習はもとより、高大接続、学部・大学院一貫教育体制を構築するための制度として、各学部・大学院において科目等履修生に開放する授業が増加することとなる。

科目等履修生の受講者数は表2-19-5-1のとおりであり、受け入れる学部・大学院数は相対的に多く、広範な専門領域に対応している。大学院では、教育系・生命科学系分野の職業資格保有者による入学数が多く、リスキリング教育を担っていることが確認される。学部では、人社系分野の入学数を一定数得ており、広い教養の涵養の場を提供している。

表2-19-5-1 科目等履修生受講者数

学部名	2020	2021	2022	研究科名	2020	2021	2022
文学部	12	22	25	人文公共学府 (M)	1	5	4
法政経学部	3	6	4	教育学研究科 (M)	38	44	44
教育学部	31	42	34	融合理工学府 (M)	1	0	1
理学部	5	4	10	融合理工学府 (D)	0	0	0
工学部	10	12	5	園芸学研究科 (M)	0	0	1
園芸学部	17	12	16	園芸学研究科 (D)	0	0	0
薬学部	12	8	9	医学薬学府 (M)	38	39	37
看護学部	0	0	3	医学薬学府 (D)	0	0	0
				看護学研究科 (M)	0	2	0
				看護学研究科 (D)	0	0	0

(2) 履修証明プログラム

2007（平成19）年の履修証明制度創設後、本学では表2-19-5-2の「履修証明プログラム」が開講されている（*は2018年度に文部科学省「職業実践力育成プログラム」（BP）の認定を受けたものである）。

表2-19-5-2 履修証明プログラム一覧

部局	履修証明プログラム名
園芸学部	園芸技術者養成プログラム
アカデミック・リンク・センター	*アカデミック・リンク教育・学修支援専門職養成プログラム
環境健康フィールド科学センター	多様な農福連携に貢献できる人材育成プログラム（応用コース） （園芸コース）
医学部附属病院	*病院経営スペシャリスト養成プログラム ～ちば医経塾～
医学薬学府	臨床医学の献体利用を推進する専門人材養成プログラム

第3項 公開講座

公開講座は「教育研究を広く社会に開放し、地域社会の教育文化の向上に資する」（千葉大学学則第75条）ことを目的に、表2-19-5-3の講座数を毎年開講している。全学公開講座は年1～2回で、他は各部局の特色を活かした講座である。2009（平成21）年度以降は急激な増加傾向にあり、2013（平成25）年度の「地（知）の拠点整備事業（COC）」、2015（平成27）年度の「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」の頃をピークに、地域に根ざした公開講座を活発に展開してきた。一方、2020～2021年度はコロナ禍によって激減したが、オンラインの活用など開催方法を工夫し、2022（令和4）年度はコロナ禍前と同程度の開講数となっている。

全学公開講座の企画・運営は、1995年設置の生涯学習推進委員会が2007（平成19）年に廃され、以降2012（平成24）年まで教育総合機構・生涯学習企画室、2013～2017年は高等教育研究機構・地域貢献専門部会、2018～2020年は担当理事（地域連携）、2021年以降は学長特別補佐（生涯学習）が担当し、同事務は当初学生部教務課からのちに学務部教育企画課が担当してきた。

2010～2013年に「房総の歴史と「記憶」という地域の歴史に絞ったテーマを企画し受講生の増加を図り、全て定員超の申込を得た。また、地域貢献専門部会担当期は、人文系・工学系教員で構成されていたため、同一テーマによる文理融合企画となり、木更津市・鴨川市等自治体との共催も行った。2018年以降現在まで、千葉市・千葉市教育委員会との共催で、2026年に迎える「千葉開府900年記念」を見据えた「千葉氏」をテーマとする公開市民講座を展開している。

表2-19-5-3 公開講座開講数（全学および部局開講）

年度	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
講座数	18	17	16	12	14	13	13	15	19	18
年度	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
講座数	22	27	20	25	30	31	24	25	21	23
年度	2019	2020	2021	2022						
講座数	19	8	9	23						

第4項 けやき倶楽部の展開

本学の生涯学習支援について、特筆すべきものとして千葉大学生涯学習友の会「けやき倶楽部」の活動がある。大学が「生涯学習の場」を提供する先駆的取り組みとして1995年に創立され、2025年には30周年を迎える。同会は自主的な生涯学習のみならず、本学および地域社会にさまざまな貢献活動を展開している。

留学生に対する日本文化体験機会の提供、教育学部や文学部等授業への参加協力、2008年からは毎年千葉大学基金への協力をいただいている。本学からは学習室（学際研究棟）の貸出、公開講座等各種催事の情報提供、教員によるけやき倶楽部での講演等を提供している。

2020年に始まったコロナ禍による倶楽部への影響は甚大で、会員数は約300名から約200名にまで減少した。会員相互の対面交流が実施できない期間、オンライン形式や千葉市生涯学習センター利用により活動は継続され、2022年4月に学習室利用が再開した。現在15の自主活動グループが活動し、2022年9月にはホームページもリニューアルされ、新たな学習者を積極的に募っているところである。

第6節 厚生施設

第1項 学寮

現在の学生寮は、老朽化に加えて、学生の希望や現在の生活様式とのずれ、大学教育における学生寮の役割の変化などを勘案し、通学困難者（主に地方出身者）に、「安心・安全」な住環境を整備・提供すること、教育や学生支援に係る機能強化を図